

本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるから、博物館活動の根底に調査研究が位置づけられなければならない。自然史博物館はその50年余に及ぶ活動から、公立博物館としては群を抜く標本や資料の蓄積をもつ。基礎科学分野の研究機関として、これらは重要な社会的使命を帯びるものである。さらに、文部科学省指定の研究機関であり、科研費の申請資格や日本育英会（現：独立行政法人日本学生支援機構）の免除職の適用など、研究機関として一定の地位を確立している。自然史科学研究者が横断的にそろって博物館施設として中核的な使命を持つ博物館でもあり、自然史科学分野の発展のためにも調査研究面での競争力強化とその推進体制の整備が急務となっている。

今年度まで、特別展準備を兼ねた、市民と協同で進める「大阪を中心とした都市の自然プロジェクト調査」を実施してきた。その成果は館で刊行する研究報告や学会誌で公表するとともに、講演会を通じて市民に普及した。

## I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館 長	山西 良平 (Ryohei YAMANISHI)	
動 物 研究室	波戸岡清峰 (Kiyotaka HATOOKA)	主任学芸員
	和田 岳 (Takeshi WADA)	主任学芸員
	石田 惣 (So ISHIDA)	学芸員
昆 虫 研究室	金沢 至 (Itaru KANAZAWA)	学芸課長代理
	初宿 成彦 (Shigehiko SHIYAKE)	主任学芸員
	松本吏樹郎 (Rikio MATSUMOTO)	学芸員
植 物 研究室	佐久間大輔 (Daisuke SAKUMA)	主任学芸員
	長谷川匡弘 (Masahiro HASEGAWA)	学芸員
	横川 昌史 (Masashi YOKOGAWA)	学芸員
地 史 研究室	川端 清司 (Kiyoshi KAWABATA)	学芸課長
	塚腰 実 (Minoru TSUKAGOSHI)	主任学芸員
	林 昭次 (Shoji HAYASHI)	学芸員
第四紀 研究室	石井 陽子 (Yoko ISHII)	学芸員
	中条 武司 (Takeshi NAKAJO)	学芸員

平成27年 3月31日現在

## II. 研究テーマ

### ■山西 良平 (館長)

- (1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究
- (2) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査研究
- (3) フナムシの分類学的研究

### ■波戸岡清峰 (動物研究室)

- (1) ウナギ目魚類各科の系統分類学的研究
- (2) 大阪湾周辺および瀬戸内海海域の魚類相の調査

### ■和田 岳 (動物研究室)

- (1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
- (2) 大阪の都市周辺の鳥類相及び哺乳類・両生爬虫類の調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
- (4) 播磨灘岸の水鳥の分布調査
- (5) キンバトの食性などに関する研究

### ■石田 惣 (動物研究室)

- (1) 軟体動物の生態学・行動学的研究
- (2) 博物館標本から推定する生物相の変遷
- (3) 生物映像のアーカイブ化とその活用
- (4) 都市公園の無脊椎動物相と分布
- (5) 大阪湾周辺および瀬戸内海海域の無脊椎動物相

### ■金沢 至 (昆虫研究室)

- (1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2) アサギマダラの移動の調査
- (3) ゴケグモ類の分布拡大の研究
- (4) 近畿地方の蛾類記録の整理

### ■初宿 成彦 (昆虫研究室)

- (1) 新生代の昆虫化石の研究（遺跡の昆虫遺体も含む）
- (2) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査
- (3) セミに関する研究
- (4) カサアブラムシの調査

### ■松本吏樹郎 (昆虫研究室)

- (1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性, 分類, 系統学的研究
- (2) マレーゼトラップによるハチ目昆虫ファウナと季節消長の調査
- (3) 近畿地方におけるハチ目昆虫相の調査
- (4) 近畿地方に移入したアカハネオンブバッタに関する調査

### ■佐久間大輔 (植物研究室)

- (1) 本郷次雄菌類関連資料のアーカイブ化及び分子生物学的利用
- (2) 里山利用の民俗生態学的研究
- (3) 丘陵地植物群集の景観生態学的研究
- (4) 博物館利用者コミュニティの発達に関する教育学的研究
- (5) 自然史標本の文化財制度及び保存科学

## 調査研究事業

### ■長谷川匡弘（植物研究室）

- (1) 顕花植物における花形態の進化とポリネーターへの適応
- (2) 里山環境における開花フェノロジーと訪花昆虫相の特徴
- (3) 希少植物種の保全生物学的研究

### ■横川 昌史（植物研究室）

- (1) 日本産ハナシノブ属の遺伝構造と集団動態
- (2) 絶滅危惧植物の保全遺伝生態学
- (3) 半自然草原植生の保全と再生
- (4) 海岸植物の分布と海岸植生の動態

### ■川端 清司（地史研究室）

- (1) 四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究
- (2) 白亜紀・古第三紀放散虫化石に関する研究
- (3) 現生放散虫に関する研究
- (4) 地質現象の「見える化」実演実験の開発とその博物館学的研究

### ■塚腰 実（地史研究室）

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) ヒシ科化石の分類学的研究
- (3) バショウ科果実化石の分類学的研究
- (4) 愛媛県久万層群産果実化石の分類学的研究

### ■林 昭次（地史研究室）

- (1) 恐竜の生理と生態
- (2) 恐竜の外皮の機能と進化
- (3) 四足動物の二次的水生適応
- (4) 脊椎動物の巨大化と小型化

### ■石井 陽子（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野の第四系の層序と地質構造に関する研究
- (2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究
- (3) ボーリング標本を用いた小・中学校理科地学分野の教材開発に関する研究

### ■中条 武司（第四紀研究室）

- (1) 干潟・汀線などの沿岸域の微地形および地層形成に関する研究
- (2) 遺跡データに基づく大阪平野形成に関する研究
- (3) 再堆積性火砕堆積物に関する研究

## Ⅲ. 文部科学省科学研究費補助金を受けて行った研究

### 1. 当館研究者が研究代表者となったもの

#### ■若手研究（B）

#### 研究課題

#### 研究代表者

海生爬虫類の水生適応：組織学的アプローチから復元する首長竜類の遊泳能力の進化

林 昭次

（3年間継続の1年目）

（課題番号：26800270）

○ドイツ・イギリス・フランスの主要な博物館・大学において、三畳紀ならびにジュラ紀の首長竜類の組織サンプルを収集した。

○穂別博物館・中川町エコミュージアムセンターにおいて、白亜紀の首長竜類の組織サンプルを収集した。

○東京学芸大学、金沢大学、ボン大学、須磨水族館、英国王立獣医大学、パリ大学と共同で現生哺乳・爬虫類骨サンプルを収集し、CT撮影を行った。

#### ■若手研究（B）

#### 研究課題

#### 研究代表者

絶滅が危惧される日本産ハナシノブ属植物の集団動態および局所適応メカニズムの解明

横川 昌史

（3年間継続の1年目）

（課題番号：30649794）

○北海道各地において、ハナシノブ属植物の標本採集とDNA分析用サンプルを収集した。

○国立科学博物館等の標本庫において、ハナシノブ属植物の標本の検討を行った。

○次世代シーケンサーを使った大規模な一塩基多型解析について情報収集と予備的な実験手法の検討を行った。

#### ■若手研究（B）

#### 研究課題

#### 研究代表者

ママコナ属における花筒長の多様化と送粉者を介した生態的種分化過程の解明

長谷川匡弘

（3年間継続の3年目）

（課題番号：24770085）

○和歌山県のオオママコナ分布域及び近縁種のシコク

- ママコナ分布域において訪花昆虫相調査を実施した。
- 和歌山県串本町及び古座川町においてオオママコナの訪花昆虫調査を実施した。
  - ママコナ属のサンプルよりDNAを抽出し、系統解析を行った。
  - 調査結果について日本生態学会第62回全国大会において公表した。
  - 3年間の調査の結果、オオママコナはシコクママコナの主要なポリネーターである長舌マルハナバチ類が極めて少ない環境下で、適応進化したものと考えられた。これらの結果については現在投稿準備中である。

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
博物館標本から再構築する日本の干潟生物相の変遷とその保全への活用	石田 惣
(4年間継続の4年目)	(課題番号：23701025)

- 東京大学総合研究博物館、国立科学博物館等が所蔵する無脊椎動物標本の調査を行った。
- 大阪湾、岡山県水島灘沿岸干潟、大分県別府湾周辺干潟等で地形環境及び生物相の調査を行った。
- 国内各地の干潟における過去の生物相及び地形環境に関する文献調査を行った。
- 過去の文献及び標本記録の集約により、大阪府の汽水域・砂浜域における生物相リストを出版した。
- 大阪湾の過去から現在にかけての干潟生物相の変遷を踏まえ、市民参加型調査「大阪湾生き物一斉調査」に対して「巻き貝」の調査テーマを提案し、調査の実施とその結果発表を行った。

■基盤研究 (A)

研究課題	研究代表者
自然史系博物館等の広域連携による「瀬戸内海の自然探求」事業の実践と連携効果の実証	波戸岡清峰
(5年間継続の3年目)	(課題番号：24240113)

- 市民参加型の観察会や採集・調査の大規模な例として、漁船により漁獲されたすべての海産生物を対象とした観察会を大阪湾の泉佐野漁港で行うとともにその有用性のアンケートを行った。
- 連携研究者の協力のもと、国東半島周辺、水島灘周辺、燧灘周辺、安芸灘沿岸、斎灘沿岸、播磨灘周辺で広く瀬戸内海の生物相の調査を行った。
- 巡回型の特別展で必要とされる、瀬戸内海地形模型や植物、昆虫のレプリカを作成した。
- 標本に基づいた瀬戸内海の魚類のリストを作成するために博物館に収蔵されている瀬戸内海産の魚類について整理を行った。

■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者
アマチュア菌類学のための支援情報基盤と遺伝情報つき地域エキシカータ作成の試み	佐久間大輔
(4年間継続の4年目)	(課題番号：23300333)

- 本郷次雄菌類図譜は日本の菌類研究上極めて重要な資料である。この資料を整理、公開し、また分子的手法を用いたDNAバーコーディングなどの情報提供などを行なうことでアマチュア菌学の活性化を図るのが本研究の要点である。
- 34冊の標本ノート1500点の画像、6000点の標本の確認データベース化及び論文引用状況のデータベース化を終えた。これらの情報を元に学会発表などで順次公開し、一部の情報はweb公開を試みている。
- 本郷標本はパラホルムアルデヒドによる燻蒸が繰り返されDNAの断片化が進んでいるが、これを1) 短鎖DNAの分析で利用、2) 顕微鏡などによる組織確認などでの利用を進めており、Endo et. al (2014)、遠藤 (2015) など成果も上がっている。
- 同一産地からの標本でのシーケンスするなど、DNAバーコーディングのリファレンス資料整備を進めており、現在データベース登録とレビューを共同研究者らとともに執筆している。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
アカハネオンブバッタの移入・	松本吏樹郎

## 調査研究事業

拡散の実態と在来オンブバッタに  
与える影響の解明

(4年間継続の1年目) (課題番号: 26430209)

- 9月20日～27日の7日間、台湾に出張してサンプリングを行った。
- 10月20日～21日の2日間、島根・鳥取に出張してサンプリングを行った。
- 得られたサンプルからDNAを抽出し、COI、ITS2領域の塩基配列を部分的に決定した。
- 近畿地方を中心にアカハネオンブバッタとオンブバッタの分布調査を行った。
- 市民と共同での分布調査を行い、得られた分布情報はweb上の調査ページで公表した。

### ■基盤研究 (C)

研究課題 研究代表者

「対話と連携の博物館」の実践的総括に  
基づく博物館運営の新たな指針の構築  
に向けて

山西 良平

(3年間継続の1年目) (課題番号: 26350396)

- 「公立博物館の地方独立行政法人化に関する研究会」を設立し、公立博物館の経営形態の新たな選択肢としての地方独立行政法人制度をどのように捉えるべきか、またその活用の可能性と留意点について、多くの博物館関係者と検討している。

### ■基盤研究 (C)

研究課題 研究代表者

生物標本作製作業への市民参加が  
生物多様性の意義理解を促進する  
効果の測定

和田 岳

(3年間継続の1年目) (課題番号: 26350265)

- 日本各地の博物館施設などにおいて、標本作製を行っているサークル・個人が一堂に会する機会として「ホネホネサミット2014」を開催。
- 「ホネホネサミット2014」への出展者・来場者を対象に生物多様性理解についてのアンケート調査を

行った。

- 大阪市立自然史博物館に蓄積している鳥類死体を対象に、市民参加での標本化作業を実施。参加者に対して生物多様性理解についてのアンケート調査を行った。
- 日本各地の自然史系博物館など鳥類標本を所蔵する施設に対して、鳥類標本の所蔵状況、その材料となる鳥類死体の蓄積状況、その標本化作業の実態のアンケート調査を依頼。

### ■基盤研究 (C)

研究課題 研究代表者

現世および考古遺跡における高潮・  
越波堆積物の認定と津波堆積物との  
比較

中条 武司

(3年間継続の2年目) (課題番号: 25400494)

- 三重県松名瀬海岸において、越波堆積物の微地形および堆積物の検討を行った。
- 瀬戸内海地域を中心に、高潮堆積物についての調査を行った。また福島県において、東日本大震災における津波堆積物の検討を行った。
- 大阪市内の遺跡の堆積物の分析作業を行った。

### ■基盤研究 (C)

研究課題 研究代表者

甲虫化石を用いた最終氷期最寒冷期  
における気温低下の推定

初宿 成彦

(3年間継続の3年目) (課題番号: 24570120)

- 昆虫化石の発掘調査を行なった。
- 甲虫類の分布データやその気象データをまとめ、古気候解析を行った。

### ■基盤研究 (C)

研究課題 研究代表者

教科書を基本とした理科以外の教科  
での自然史博物館活用と学校向けツ  
ールの調査・開発

釋 知恵子

(3年間継続の2年目) (課題番号：25350411)

- 国語で使える貸し出しキット「タンポポ」と「虫の体」を作成した。「タンポポ」の試作段階では、8月8日に開催した教員向け行事「教員のための博物館」において紹介し、教員から感想・意見を集めて、改良を加えた。次年度の貸し出しキットの改良と評価に向け、教員をメンバーとする貸し出しキットの企画会議を行った。
- 大阪市内の小中学校に採用されている教科書と、自然史博物館の展示や貸し出し資料等との対応表を掲載するなど、博物館のホームページの「学校と博物館」のページを教員に使いやすくリニューアルした。
- 8月8日の「教員のための博物館の日」参加者と秋の遠足の下見に来る教員等に見てもらえるように、特別展「ねこが見つける都市の自然」と学校の教科書との関連を紹介するコーナー展示を作った。
- 博物館のホームページ「学校と博物館」のリニューアル、貸し出しキットについて、博物館のホームページへの情報掲載や、チラシを作成するなどして次年度以降の活用につなげた。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
カビの勝者と敗者を分ける要因は何か？	浜田 信夫

(3年間継続の3年目) (課題番号：24500936)

- 石灰岩帯の他にセメントの粉塵が蓄積している都市公園からも、浴室に多い*Scolecobasidium humicola*に遺伝的に近縁の株が分離された。耐アルカリ性、石けん利用性、界面活性剤利用性、耐熱性のいずれの特性も*S. humicola*の株が保持しているのに対して、この株は多くの生理的に共通の特性を持つものの、いずれか1つか2つの特性を欠いていることが分かった。とりわけ、都市公園由来の株は、界面活性剤利用性についても、*S. humicola*に類似していた。セメントとともに、住宅の近くに移入した*S. humicola*の近縁種の中で、耐熱性などに優れた株が住宅の浴室などに侵入し、定着したと思われる。

2. 当館学芸員が研究分担者となったもの

■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者	当館分担者
日本の博物館総合調査研究	篠原 徹	佐久間大輔

(課題番号：25282079)

- 平成25年度に実施された「博物館総合調査」のデータを元に博物館の現状に関する全国調査の解析を行うプロジェクト。佐久間はこのうち友の会、講演会、ボランティアなどの博物館活動への市民参加に関する研究、博物館学芸員の調査研究活動、SNSなどインターネットの利用に関する研究を分担した。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者	当館分担者
博物館植物標本の生存組織を用いた絶滅集団の復元：組織培養法の確立と普及	志賀 隆	長谷川匡弘

(課題番号：26350387)

- 博物館標本にある生存種子を探索し、その組織より絶滅植物の植物体を得て野生復帰を行うための技術、方法論を確立するための研究。長谷川はこのうち、博物館標本の種子の収集を担当した。

IV. 財団等の助成を受けて行った研究

■琉球大学熱帯生物圏研究センター 平成26年度共同利用研究公募成

研究課題	研究代表者
クロボウモドキの集団間の個体群構造と遺伝構造に関する研究	横川 昌史

- 沖縄県西表島のクロボウモドキの生育地において、個体群構造と植生の調査を行った。
- クロボウモドキのすべての自生地から採取した葉を用いて、アロザイム多型の分析を行った。

## 調査研究事業

### ■平成26年度 タカラ・ハーモニストファンド

研究課題	研究代表者
草原再生が半自然草原の植生と 土壌に与える影響の検証	横川 昌史

○熊本県高森町の草原再生実験区において、植生調査を行った。

### ■一般財団法人 全国科学博物館振興財団 平成26年度全国科学博物館活動等助成

研究課題	研究代表者
博物館所蔵ボーリング標本から探る 平野地下の地層：貸出教材の開発による地学教育支援	石井 陽子

(助成金交付番号：14017)

○大阪市立自然史博物館所蔵のボーリング標本を調査し、大阪平野の地下に分布する第四系の層序と地質構造を検討した。その研究成果に基づき、ボーリング標本と展示品の写真パネルを組み合わせた、小中学校の地学分野の貸出教材を開発し、運用を行った。貸出教材を用いた指導案やワークシートを作成して貸出教材の利用を促進した。

## V. 海外派遣

### ■科研費（若手研究B）による出張

氏名：林 昭次

日程：10月22日～11月12日（22日間）

出張先：ドイツ、フランス

目的：首長竜化石の組織学サンプル採取のため

## VI. 著作活動

### ■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行のNature Study誌は、ns.と略記した。当館職員以外の著者には氏名に\*を付した。

#### 【動物研究室】

波戸岡清峰（分担執筆）（2014.7）大阪市立自然史博物館第45回特別展「ネコと見つける都市の自然」解説書「都市の自然2014」.大阪市立自然史博物館、

113pp.

波戸岡清峰・石田 惣（2014.11）イギリス海洋調査船チャレンジャー号が1875年に瀬戸内海で採集した魚類. 2014年度日本魚類学会講演要旨：38.

宮越和美\*・箕輪義隆\*・和田岳（2014.4）三重県津市町屋浜海岸で得られたマダラシロハラミズナギドリ *Pterodroma inexpectata*. 日本鳥学会誌 63：59-62.

和田岳（分担執筆）（2014.4）鳩居. 「岩波科学ライブラリー 広辞苑を3倍楽しむ」岩波書店.128pp.

和田岳（2014.5）大阪府レッドリスト改訂 鳥類から見た大阪府の生物多様性. むくどり通信（231）：10.

和田岳（2014.5）身近な鳥から鳥類学 第20回 巣立ちピナを減らすのは誰？. むくどり通信（231）：11.

和田岳（2014.6）大阪府のレッドリスト改訂 新たな取り組みと残された課題、及び大阪府の水田環境の危機について. 地域自然史と保全 36(1)：21-26.

和田岳（2014.7）大阪府とその周辺のハッカチョウの歴史と現状. ns. 60：86-88.

和田岳（分担執筆）（2014.7）大阪市立自然史博物館第45回特別展「ネコと見つける都市の自然」解説書「都市の自然2014」.大阪市立自然史博物館、113pp.

和田岳（2014.7）身近な鳥から鳥類学 第21回 イソヒヨドリとハッカチョウ. むくどり通信（232）：11.

和田岳（2014.9）身近な鳥から鳥類学 第22回 ヒヨドリの渡りも調べよう. むくどり通信（233）：15.

和田岳（2014.11）身近な鳥から鳥類学 第23回 ヤマガラが下りてくる年. むくどり通信（234）：11.

和田岳（2014.12）大阪府のムクドリ集団ねぐらさがし. ns. 60：163.

和田岳（2015.1）身近な鳥から鳥類学 第24回 ムクドリねぐら探し. むくどり通信（235）：11.

和田岳（2015.3）身近な鳥から鳥類学 第25回 ウグイスにせまる2つの危機. むくどり通信（236）：10.

和田岳（分担執筆）（2015.3）堺市の生物多様性保全上考慮すべき野生生物 堺市レッドリスト2015・堺市外来種ブラックリスト2015. 堺市環境局環境保全部環境共生課、堺. 59pp.

石田惣（2014.4）博物館標本から再現する明治から昭和前期の干潟の貝類相 - 東京湾と大阪湾を中心に -. 日本貝類学会平成26年度大会研究発表要旨集：38.

石田惣（分担執筆）（2014.7）大阪市立自然史博物館第45回特別展「ネコと見つける都市の自然」解説書「都市の自然2014」.大阪市立自然史博物館、113pp.

石田惣・波戸岡清峰（2014.9）イギリス海洋調査船チャレンジャー号が1875年に瀬戸内海で採集した底生生物標本. 2014年日本プランクトン学会・日本ベ

- ントス学会合同大会（広島）講演要旨。
- 石田惣（2014.9）家の中の生き物：ヒル、エビ、ウナギにアユモドキ？. ns. 60（9）：9.
- 大古場正\*・北藤真人\*・石田惣（2014.12）男里川河口に生息するタケノコカワニナ. ns. 60（12）：2-3.
- 石田惣・山田浩二\*・山西良平・和田太一\*・渡部哲也（2014.12）大阪府の汽水域・砂浜域の無脊椎動物および藻類相. 自然史研究 3（15）：237-271.
- 佐々木猛智\*・石田惣・中野智之\*・照屋清之介\*（2014.12）大阪市立自然史博物館所蔵吉良コレクション中のカサガイ類. ちりぼたん 45（2）：62-71.
- 石田惣・木邑聡美\*・唐澤恒夫\*・岡崎一成\*・星野利浩\*・長安菜穂子\*（2015.3）淀川のヌートリアによるイシガイ科貝類の捕食事例，および死殻から推定されるその特徴. 大阪市立自然史博物館研究報告（69）：29-40.
- 【昆虫研究室】**
- 平化躰逸\*・土井仲治郎\*・金沢至（2014.5）伊勢湾周辺における移動昆虫調査の報告（2012年）. Gracile（74）：23-28.
- 金沢至（2014.5）国境をこえて、人々をつなぐアサギマダラの移動. センスオブワンダー. 環境市民マガジン「流れをかえる」：24-25.
- 金沢至（2014.6）都市の蝶・モンシロチョウの不思議. ns. 60(6)：7-8.
- 松田真平\*・金沢至（2014.7）8.チョウ・ガ. 第45回大阪市立自然史博物館特別展「都市の自然」解説書：33-36.
- 中塚久美子\*・広渡俊哉\*・池内健\*・長田庸平\*・金沢至（2014.9）大阪府内のさまざまな緑地における腐植食性ガ類の種多様性. 日本昆虫学会第74回大会講演要旨：34.
- 金沢至（2014.9）大阪府のウラナミジヤノメの保護活動. 日本昆虫学会第74回大会講演要旨：92.
- 金沢至（2014.9）2012年のアサギマダラの調査成果報告. 2013年第一回アサギマダラプロジェクト公開シンポジウム報告. やどりが(242)：60.
- 金沢至（2014.11）アサギマダラなどの移動蝶の調査－2013年の成果－. 日本鱗翅学会第61回大会講演要旨：12.
- 今城香代子\*・金沢至（2014.12）カシノナガキクイムシの効果的防除方法の一例. 日本昆虫学会近畿支部2014年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第150回例会講演要旨：11.
- 金沢至・伊藤雅男\*・福村拓己\*（2014.12）アサギマダラの南下移動コースに関する仮説. 日本昆虫学会近畿支部2014年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第150回例会講演要旨：11-12.
- Kanazawa I., Cheng W. W. W.\*, Pun S. F. H.\*, Sakiyama Y.\*, Doi H.\*（2015.3）First migration record of Chesnut Tiger Butterfly, *Parantica sita nipponica* (Moore, 1883) (Lepidoptera : Nymphalidae : Danainae) from Japan to Hong Kong and longest recorded movement by the species. The Pan-Pacific Entomologist 91(1) : 91-97.
- William Wai-wa Cheng\*, Hydrogen Sui-fai Pun\*, On-ming Chung\*, Takumi Fukumura\* and Itaru Kanazawa（2015.3）*Parantica sita nipponica* (Lepidoptera : Nymphalidae) migrated from Japan to Hong Kong, southern China in 2013. Bulletin of the Osaka Museum of Natural History（69）：25-28.
- 大阪生物多様性ネットワーク（編）（2014.3）大阪府レッドリスト2014. 大阪府. 48pp. [分担執筆]
- 初宿成彦（2014.4）プロジェクトU都市の自然調査レポート なぜ減った？ 都市部の糞虫. ns. 60（4）：9.
- 初宿成彦（2014.4）六甲山麓、標高300mのクマゼミぬけがら. ns. 60(4)：15.
- 初宿成彦（文責）（2014.6）鞠公園セミのぬけがらしらべ2013の結果. ns. 60(6)：8.
- 大原昌宏\*・林成多\*・門脇久志\*・初宿成彦（2014.6）鳥取県のエンマムシ科. さやばね（14）：15-18.
- 大阪市立自然史博物館（編）（2014.7）第45回特別展「ネコと見つける都市の自然」解説書 都市の自然2014. 113pp.（分担執筆）
- Shiyake S. Fossil Insect Research Group for Nojiriko-Excavation（2014.8）Applying the Mutual Climatic Range method to the beetle assemblages in Japan using accurate data of climate and distribution of modern species. Quaternary International 341 : 267-271.
- 初宿成彦（2014.9）大阪市24区の甲虫あれこれ. ns. 60（9）：2-6.
- 初宿成彦（2014.11）虫えいの名前. ns. 60(11)：8.
- 初宿成彦・安井通宏\*・伊藤建夫\*・富永修\*・三宅規子\*・市川顕彦\*・河合正人\*・大阪市立自然史博物館「都市の自然」調査グループ甲虫班（2014.11）[P-6] 大阪市24区の甲虫相とその変遷. 日本甲虫学会第5回大会講演要旨：20.
- 初宿成彦・大阪市立自然史博物館「都市の自然」調査グループ甲虫班（2014.11）都市部において生物多様性が減少した時期 ～大阪市の甲虫相変遷を例に

- ～. 日本環境動物昆虫学会大会講演要旨：14.
- 初宿成彦 (2015.1) 10月のクマゼミ. ns. 61(1) : 12.
- Havill N\*, Shiyake S, Galloway A\*, Footitt R\*, Yu G\*, Cacoon A\* (2015.1) Ancient and modern colonization by hemlock adelgids despite host plant specialization, a complex life cycle and genetic bottlenecks. USDA Research Forum.
- 初宿成彦 (編) (2015.3) 大阪市立自然史博物館 所蔵甲虫類目録 (4) -ハネカクシ科1・コムツキムシ科2・テントウムシ科-. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第47集. 145 pp.
- 初宿成彦 (2015.3) 昆虫類. 堺市の生物多様性保全上考慮すべき野生生物 -堺市レッドリスト2015・堺市外来種ブラックリスト2015 : 17.
- 初宿成彦・井上智博\* (2015.3) 田井中遺跡12-2の昆虫遺体. 大阪文化財研究(46) : 35-40.
- 松本吏樹郎 (2014.8) (総説) クモヒメバチ属群 (Polysphincta-group of genera) の自然史. Acta Arachnologica 63(1) : 41-53.
- Matsumoto R. (2014.7) Phylogeny and reclassification of the *Polysphincta* group of genera (Ichneumonidae; Pimplinae), with reference to host association and host manipulation. Eighth International Congress of Hymenopterists. Program and Abstracts : 39.
- Takasuka K.\* Yasui T.\* Ishigami T.\* Nakata K.\* Matsumoto R. Ikeda K.\* Maeto K.\* (2014.7) A parasitoid larva evokes the resting web of a host spider with fibrous thread decoration as an amber light for flying insects. Eighth International Congress of Hymenopterists. Program and Abstracts : 55.
- 松本吏樹郎 (2014.9) クモヒメバチ属群の系統と分類～クモ利用の進化 (Polysphincta group, Pimplinae; Ichneumonidae). 講演要旨 : 77.
- 松本吏樹郎 (2014.9) 分子マーカーのつかいよう～寄生バチの分類、系統、生活史の研究において. 講演要旨 : 100.
- 松本吏樹郎 (2014.12) 近畿地方におけるアカハネオンブバッタ移入個体群の分布拡大と由来. 日本昆虫学会近畿支部2014年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第150回例会講演要旨 : 12.
- 大阪市立自然史博物館 (編) (分担執筆) (2014.7) 第45回特別展「ネコと見つける都市の自然一家の中から公園さんぽー」解説書「都市の自然2014」
- 松本吏樹郎 (2014.5) 近畿地方に移入したアカハネオンブバッタ. ns. 60 (5) : 9-10.
- 松本吏樹郎 (2014.11) 今年はスズメバチが多かった? ns. 60 (11) : 12.
- 松本吏樹郎 (2014.12) チャバネフユエダシヤクのメス. ns. 60 (12) : 1.
- 【植物研究室】**
- 佐久間大輔・橋屋誠\* (2014.6) 本郷博士記載種の京都・滋賀周辺の基準産地の分布、植生と現状. 日本菌学会第58回大会要旨 : 30.
- 今村彰生\*・乾美浪\*・菊地淳一\*・佐久間大輔 (2014.6) 属特異的プライマーによる本郷次雄標本の断片化した DNA 増幅の試み. 日本菌学会第58回大会要旨 : 31.
- 佐久間大輔 (2014.6) 「多様化する博物館の理念と制度『対話と連携の博物館の総括』(1)」について. 博物館研究 49(6) : 13-17.
- 佐久間大輔 (2014.6) 東日本大震災における大阪市立自然史博物館の活動記録と残された課題. 大阪市立自然史博物館館報 (39) : 1-4.
- Naoki Endo\*, Fuminori Kawamura\*, Ryoko Kitahara\*, Daisuke Sakuma, Masaki Fukuda\*, Akiyoshi Yamada\* (2014.6) Synthesis of Japanese *Boletus edulis ectomycorrhizae* with Japanese red pine. Mycoscience 55 (5) : 405-416.
- 佐久間大輔 (2014.8) 小難しい学芸員のやさしい小咄 本郷博士のきのこ図鑑は散歩で作られた? ご近所サイエンスのススメ. ns. 60(7) : 8.
- Sakuma, D. (2014.9) What has to be done before the next disaster? - Biodiversity Heritage in Museums needs multi-core network, social supports and legitimate frameworks. IUBS/BDNJ Joint International Symposium and Workshop on Disaster and Biodiversity Abstracts : 43-44.
- 佐久間大輔 (2014.9) 博物館の基礎的ビハインド・ザ・シーンである研究活動を公開する : SNS の利用を中心に. 博物館研究 49(9) : 18-21.
- 佐久間大輔 (2014.9) ワチとワチガイソウの名についての雑想 近畿植物同好会会報 (119) : 31-32.
- 佐久間大輔 (文)・荒尾瀧男 (写真) (2014.10) スギヒラタケの成長. ns. 60(10) : 15,16.
- 佐久間大輔 (2014.12) 生物多様性時代、自然史博物館の持つ資源をどうアーカイブし公共財として活かすのか. デジタルアーカイブ研究誌2 (1) : 11-16
- 佐久間大輔 (2015.1) 京都の桃山に残るモモの枝花生産. ns.61(1) : 3-5,12.
- 佐久間大輔 (2015.1) 報告 : 菌学会中高生向け実習講座「きのことカビから始めるバイオサイエンス」. 日本菌学会ニュースレター 2015-1 : 7-8.



- 佐久間大輔 (2015.2) 大阪市立自然史博物館菌類コレクションと上田俊穂先生. 関西菌類談話会会報 No.31 : 32-33.
- 佐久間大輔 (2015.1) 博物館の市民協働における「友の会コミュニティ」の基盤としての重要性. Museum 2015 論文集 講演4.3.
- 佐久間大輔 (2015.2) 博物館を規定するもの. 博物館研究 50 (2) : 7-8.
- 佐久間大輔 (2015.2) 第4部 博物館の市民協働 第1章 博物館の市民協働における「友の会コミュニティ」の基盤としての重要性ーボランティア・地域連携との関連からー. 日本の博物館総合調査研究 : 中間報告書 : 178-191.
- 佐久間大輔 (2015.3) 多様性とネットワーク 自然史系博物館の場合. ふるさとの植物を守ろう No.16 : 2
- 佐久間大輔 (分担執筆) (2015.3) 堺市の生物多様性保全上考慮すべき野生生物 -堺市レッドリスト 2015・堺市外来種ブラックリスト2015- 堺市環境局 環境保全部 環境共生課.
- 佐久間大輔 (分担執筆) (2015.3) 堺市野生生物目録 (2015年3月版). 堺市環境局 環境保全部 環境共生課.
- 今村彰生\*・乾美浪\*・菊地淳一\*・脇村圭\*・佐久間大輔 (2015.3) 属特異的プライマーによる本郷次雄標本の断片化したDNA増幅の試み. 日本生態学会第62回大会講演要旨PA2-112.
- 久米田裕子\*・坂田淳子\*・高鳥浩介\*・木川りか\*・佐藤嘉則\*・佐久間大輔 (2015.3) 津波による被災植物標本のカビ被害調査. 保存科学 54 : 75-82.
- 長谷川匡弘 (2014.6) 住吉大社の花とハナバチたち～神事と関係のあるハナバチも～ 住吉っさん 22 : 7-8.
- 大阪市立自然史博物館 (佐久間・長谷川・横川分担執筆) (2014.7) ネコと見つける都市の自然2014. 大阪市立自然史博物館.
- 長谷川匡弘・藤井俊夫\*・佐久間大輔 (2014.8) 大阪市西成区の住宅街の中に残る「湿地」～生育する植物相の報告～ ns. 60 (8) : 2-5.
- 澤優輝\*・港翼\*・長谷川匡弘・志賀隆\* (2014.9) 標本の種子は長生きか? 日本植物学会第78回大会 P-053.
- 長谷川匡弘 (2015.3) 住吉大社・御田の植物～大阪市内の都市水田との比較～. 関西自然保護機構 (KONC) 2015年度大会.
- 志賀隆\*・平澤優輝\*・中浜直之\*・井鷲裕司\*・長谷川匡弘. (2015.3) その標本のタネ, 生きてますよ! : 標本種子を用いた絶滅集団復元の試み. 日本植物分類学会第14回大会.
- 長谷川匡弘 (2014.3) 紀伊半島南部のママコナ属における花形態の進化とその要因. 近畿植物同好会総会.
- 長谷川匡弘 (2014.3) ガ媒花オオママコナと近縁種シコクママコナの生育地における訪花昆虫比較～ポリネーターシフトが進行する環境を考える. 第62回日本生態学会大会 PA2-170
- 藤井俊夫\*・長谷川匡弘. 都市公園と里山林の植物相の比較. 第62回日本生態学会大会 PA2-127
- Worth R. P. J.\*, Yokogawa M., Isagi Y\*. (2014. 6) Outcrossing rates and organelle inheritance estimated from two natural populations of the Japanese endemic conifer *Sciadopitys verticillata*. Journal of Plant Research 127(5) : 617-626.
- Worth R. P. J.\*, Yokogawa M., Andres P. F\*, Tsumura Y.\*, Tomaru N.\*, Janes J. K.\*, Isagi Y.\* (2014. 7) Conflict in outcomes for conservation based on population genetic diversity and genetic divergence approaches : a case study in the Japanese relictual conifer *Sciadopitys verticillata* (Sciadopityaceae) . Conservation Genetics 15(5) : 1243-1257.
- 横川昌史 (2015. 3) 国東半島南東部における塩生湿地および砂浜・砂丘の植生の現状と各調査地における20年間の変化. 大阪市立自然史博物館研究報告 (69) : 1-18.
- 横川昌史 (2014.8) 吹田市に残る小っちゃい半自然草原の謎. ns. 60(8) : 9.
- 横川昌史 (2014.12) 本の紹介 : ネイチャーガイド「日本の水草」. ns. 60(12) : 15.
- 横川昌史 (2014.10) 大阪府吹田市の「小っちゃい草原」を見学しました. 全国草原再生ネットワーク ニュースレター (20) : 4-5.
- 横川昌史 (2015. 3) 半自然草原の生物多様性保全について注意すべきこと. 2015年度日本草地学会大会講演要旨 企画シンポジウム1「草地生態系の多面的機能と環境保全」.
- 野間直彦\*・升方拓郎\*・水田有夏志\*・横川昌史 (2015. 3) 鈴鹿山脈御池岳におけるニホンジカ食圧下の植生変化. 第62回日本生態学会大会講演要旨 PB2-204.
- 指村奈穂子\*・池田明彦\*・大谷雅人\*・澤田佳宏・須貝杏子\*・内貴章世\*・古本良\*・横川昌史 (2015. 3) 希少樹種クロボウモドキ (バンレイシ科) の個体群構造. 第62回日本生態学会大会講演要旨 PA2-038
- 内貴章世\*・須貝杏子\*・安藤朋恵\*・小川遼\*・古本良

\*・池田明彦\*・大谷雅人\*・指村奈穂子\*・横川昌史 (2015.3) クロボウモドキ (バンレイシ科) の遺伝的多様性. 植物分類学会第14回大会講演要旨: 48.

横川昌史 (2015.3) 瀬戸内海沿岸に生育する海岸植物の分布調査に向けて. 関西自然保護機構2015年度大会講演要旨.

指村奈穂子\*・大谷雅人\*・古本良\*・横川昌史・澤田佳宏\* (2014.10) 新潟県における海岸の希少種バシクルモンの分布・個体群構造と植生の関係. 第19回植生学会大会講演要旨 P04.

澤田佳宏\*・指村奈穂子\*・池田明彦\*・大谷雅人\*・須貝杏子\*・内貴章世\*・中山博子\*・古本良\*・横川昌史 (2014.10) 希少樹種クロボウモドキ (バンレイシ科) の生育立地と植生. 第19回植生学会大会講演要旨 P06.

**【地史研究室】**

川端清司 (2014.4) 小難しい学芸員のやさしくない小咄. ララミディア大陸と海面変動. ns. 60(4): 6-7.

川端清司 (2014.9) 改訂版 プラスチック水槽を用いた褶曲モデル実験. 日本地質学会第121年学術大会 (鹿児島) 講演要旨集: 297.

川端清司 (2014.11) ビルの石材のカンラン岩. ns.60 (11): 1.

川端清司 (2014.11) 梅田で岩石観察をしよう! ns.60 (11): 2-5.

川端清司 (2014.11) 夜間小集会「大学の博物館と地域の博物館」報告. 日本地質学会News 17(11): 9.

川端清司・中条武司 (2015.3) ミニガイドNo.27 大阪の川原の石ころ. 大阪市立自然史博物館: 36pp.

塚腰実 (2014.5) トリケラトプスの仲間が暮らした森. ns. 60 (5): 2-3.

山田敏弘\*・山田茉莉子\*・塚腰実 (2014.6) バラバラの器官をつなぎ合わせる作業: マツ亜節 (マツ科マツ属) の場合. 日本古生物学会2014年会 (講演要旨).

塚腰実・岡本隆\*・堀利栄\* (2014.6) キントラノオ科化石の研究成果を「久万層群から発見された *Banisteraecarpum giganteum*. 日本古生物学会2014年会 (講演要旨).

塚腰実 (2014.8) 柏餅を包んでいる葉の観察. ns. 60 (8): 10.

塚腰実・岡野浩\* (2014.8) メタセコイア: 発見・普及の歴史と三木茂博士の着眼点. 地学団体研究会第68回総会. (講演要旨)

Tsukagoshi, M., H. Okano\* (2014.8) The spreading of paleobotanical research on *Metasequoia* and its relationship with cultural development. 9th

European Palaeobotany and Palynology conference. (Abstract, Poster)

Tsukagoshi, M. (2014.8) Reexamination of the taxonomy of the genus *Hemitrapa* (Trapaceae) from Europe and North America. 9th European Palaeobotany and Palynology conference. (Abstract, Poster)

釋知恵子・塚腰実・佐久間大輔・和田岳・広瀬祐司\* (2014.8) 博物館に親しみがない教員にむけた博物館からのアプローチ. 「教員のための博物館の日 in 大阪市立自然史博物館」の取り組み. 日本理科教育学会第64回全国大会論文集: 432 (講演要旨).

塚腰実 (2014.10) イヌカラマツ. ns. 60 (10): 25, 140.

塚腰実 (2014.10) アーモンドの観察と扁桃・扁桃体. ns. 60 (10): 126-129.

塚腰実 (2015.1) 小難しい学芸員のやさしい小咄. フェニックスの幹にある葉の痕がつくる斜めの列. ns. 61 (1): 6.

山田敏弘\*・山田茉莉子\*・塚腰実 (2015.1) オオミツバマツの学名 *Pinus trifolia* Miki は不要名である. 日本古生物学会第164回例会 (講演要旨)

岡野浩・塚腰実 (2015.3) メタセコイアと文化創造—植物的社会デザインへの招待. 大阪公立大学共同出版会. 49pp.

柴田正輝\*・林昭次・塚腰実編集 (2015.3) 特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」 大阪市立自然史博物館・読売新聞社. 158pp.

林昭次. (2014.3) ステゴサウリア類の板と棘はなんのため? ns. 60 (4): 3-5.

林昭次・渡部真人\*・Burns, M.\*・Carpenter, K.\* (2014.7) 剣竜類と鎧竜類の皮骨における成長様式の差異: 装楯類恐竜がもつ皮骨機能の多様性. 日本古生物学会, 九州大学, 講演要旨.

林昭次 (監修) (2014.10) 研究室に行ってみた. 大阪市立自然史博物館 地史研究室 古脊椎動物学 ナショナルジオグラフィック web版.

Hayashi, S., Redelstorff, S.\*, Mateus, O.\*, Watabe, M.\*, Carpenter, K.\* (2014.11) Gigantism of stegosaurian osteoderms. 74st Annual Meeting Society of Vertebrate Paleontology, Berlin, Germany, 講演要旨.

林昭次 (2014.11) 骨の内部組織から探るマチカネワニの謎. マチカネワニ化石発見50周年記念事業 大阪大学シンポジウム「マチカネワニ・サミット2014」, 豊中市アクア文化ホール, 講演要旨.

Redelstorff, R.\*, Hayashi, S., Rothchild, B.\*, Chinsamy,

- A.\* (2015.1) Multifocal bone infection in stegosaurs from Como Bluff, Wyoming. *Lethaia* 48 (1) : 47-55.
- 花井智也\*, 林昭次, 佐藤たまき\* (2015.2) 首長竜類ポリコティルス科の骨組織. 日本古生物学会, 豊橋市立自然史博物館, 講演要旨.
- 林昭次 (2015.3) 骨組織学から読み解く絶滅動物の生理と生態. 化石研究会会誌 47 (1) : 18-26.
- 林昭次 (分担執筆・監修・編集) (2015.3) 特別展 スペイン奇跡の恐竜たち図録, 大阪市立自然史博物館 読売新聞社. 158pp.
- 林昭次 (監修) (2015.3) ステゴサウルス. 科学雑誌 ニュートン.

#### 【第四紀研究室】

- 中条武司 (2014.7) 第1章1都市環境の特性 (pp.3-4) ; 第1章2都市の立地と地形 (4-5) ; コラム都市の「坂」を調べる (5-7) ; コラム都市平野に起こる災害 (10-11) . 大阪市立自然史博物館第45回特別展解説書「都市の自然2014」. 113pp.
- 中条武司・三田村宗樹\*・奥平敬元\*・菅森義晃\* (2014.9) 大阪府レッドリスト地形・地質版の作成とその課題. 日本第四紀学会2014年大会 (柏) 講演要旨集 : 24.
- 趙 哲済\*・中条武司・松田順一郎\* (2014.9) 難波砂州における縄文時代後期以降の古地理の変遷. 日本第四紀学会2014年大会 (柏) 講演要旨集 : 182.
- 中条武司・三田村宗樹\*・奥平敬元\*・菅森義晃\* (2014.9) 大阪府レッドリスト地形・地質版作成の意義と問題点. 日本地質学会第121年学術大会 (鹿児島) 講演要旨 : 219.
- 中条武司・趙 哲済\* (2014.10) 大阪の地下にある石ころの浜辺. *ns.* 60 (10) : 137-138.
- 川端清司・中条武司 (2015.3) ミニガイドNo.27 大阪の川原の石ころ. 大阪市立自然史博物館. 36pp.
- 石井陽子 (2014.4) 博物館所蔵のボーリングコアをつかって大阪平野地下の地層をさぐる - 地学分野の学校向け貸し出し教材の開発・運用と防災教育への展開 -. 平成25年度笹川科学研究奨励賞受賞研究発表会. <http://www.jss.or.jp/material/img2/d-etal6.pdf> (20150415閲覧)
- 石井陽子 (2014.6) 蒜山原の珪藻土層. *ns.* 60 (6) : 1,14.
- 石井陽子 (2014.6) 大阪平野の地下の地層 : 大阪市西成区、浪速区で明らかになったこと. *ns.* 60 (6) : 2-4.
- 石井陽子 (2014.7) 第1章3都市の地盤 (pp.7-9), 附図1,2 : 表紙見返し. 大阪市立自然史博物館第45回特別展解説書「都市の自然2014」. 113pp.
- 石井陽子 (2014.8) 博物館所蔵ボーリングコアを用いた地学分野の学校向け貸し出し教材の開発と運用. 日本地学教育学会第68回全国大会 北海道大会講演予稿集 : 125-126.
- 石井陽子 (2014.9) 博物館所蔵ボーリングコアを用いた学校向け貸し出し教材の開発と地学教育支援. 日本地質学会第121年学術大会 (鹿児島) 講演要旨集 : 297.
- 石井陽子 (2014.12) 岸和田市で観察できる大阪層群の火山灰層 顕微鏡観察編. *From M.*56,1-2. (岸和田市郷土文化室) [http://www.city.kishiwada.osaka.jp/u-ploaded/life/7212\\_56778\\_misc.pdf](http://www.city.kishiwada.osaka.jp/u-ploaded/life/7212_56778_misc.pdf) (20150415閲覧)
- 石井陽子 (2015.2) 蒜山原層の珪藻土と珪藻化石. *ns.*61(2) : 10.

#### 【総務課】

- 土屋実穂\*・岩崎誠司\*・渡部千秋\*・杉本加奈子\*・釋知恵子・星野由美子\*・小川義和\* (2014.5) 「教員のための博物館の日」の現状と全国展開について. *博物館研究* 49(5) : 12-15.
- 釋知恵子・塚腰実・佐久間大輔・和田岳・広瀬祐司\* (2014.8) 博物館に親しみがない教員に向けた博物館からのアプローチ 「教員のための博物館の日 in 大阪市立自然史博物館」の取り組み. *日本理科教育学会第64回全国大会論文集* : 432.
- 広瀬祐司\*・引馬淳\*・釋知恵子・石田惣・佐久間大輔 (2014.8) 博物館と連携したPISA型学力養成の成果 - カリキュラムマネジメントと授業改善 -. *日本理科教育学会第64回全国大会論文集* : 374.

## VII. 講演・館外活動・社会貢献など

報文一覧に含まれない講演などの館外活動をここに採録した。

#### 波戸岡

日本魚類学会評議員  
大阪市立大学非常勤講師「博物館資料保存論」

#### 石田

日本貝類学会評議員  
日本貝類学会研究連絡誌「ちりぼたん」編集幹事  
日本ベントス学会自然史学会連合派遣委員  
軟体動物多様性学会「Molluscan Diversity」編集委員  
環境省モニタリングサイト1000沿岸域部会委員 (磯分科会代表)  
大阪府レッドリスト改定検討委員会委員

## 調査研究事業

### 金沢

金沢 至 (2014.6) セアカゴケグモの発見と咬傷分析など. 平成26年度福岡市セアカゴケグモ講習会 (福岡市)

金沢 至 (2014.8) 虫は超能力者～昆虫たちのオドロキの生活. 富田林市立中央公民館講座 (富田林市)

日本昆虫学会評議員

日本昆虫学会電子化推進委員長 (～12月)

日本環境動物昆虫学会評議員

日本鱗翅学会評議員

渡りチョウを調べる会企画・HP担当

大阪市立大学非常勤講師「博物館資料保存論」

### 初宿

日本甲虫学会 評議員 (～12月) ・副会長 (1月～)

日本環境動物昆虫学会 生物保護とアセスメント手法研究部会 運営委員

### 松本

日本昆虫学会評議員

日本昆虫学会近畿支部幹事

大阪市立大学 非常勤講師「生物学実験」

### 佐久間

日本菌学会評議員

大阪市立大学非常勤講師「博物館経営論」

全国科学系博物館協議会WG委員・編集委員

岸和田市環境審議会委員

吹田市文化財審議会委員

大阪府レッドリスト改定検討委員会委員

### 長谷川

日本生態学会近畿地区会委員

大阪府レッドリスト改定検討委員会委員

### 横川

大阪府レッドリスト改定検討委員会委員

横川昌史 (2014. 9) 吹田の原っぱが持つ意味と草花の調査方法. SAVE JAPANプロジェクト2014 まちなかにある小っちゃい草原～「吹田の原っぱ」は希少種の宝庫 (吹田市)

横川昌史 (2014. 10) 半自然草原ってな～に: 日本の草原から見た吹田の小っちゃい草原の意味. NPO法人吹田市民環境会議主催 第4回環境楽座 (吹田市)

### 川端

日本地質学会理事、各賞選考委員会委員、「県の石」選定委員会委員長

日本地質学会第121年学術大会夜間小集会「大学の博物館と地域の博物館」鹿児島大学 (鹿児島市) を主催

地学団体研究会大阪支部運営委員

大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」

川端清司 (2014.10) 東大阪市立埋蔵文化財センター 歴史講座第1回「地質と石材利用 近畿の地質と岩石」 (一般市民向け招待講演)

### 塚腰

地学団体研究会大阪支部運営委員

大阪市立大学教務部非常勤講師「大阪の自然」

塚腰実 (2014.7) メタセコイアと大阪一三木茂博士のメタセコイア発見の着眼点とメタセコイア保存会によるメタセコイアの普及. 第5回国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」・第3回国際都市創造性学会 (一般市民向け招待講演)

塚腰実 (2014.9) 生きている化石 イチョウ・メタセコイア. 第29回サイエンス・フォーラム in さっぽろ (一般市民向け招待講演)

塚腰実 (2015.2) 大阪市立大学理学部附属植物園市民講座「植物と私たちの生活」第3回「メタセコイアから見た大阪の森の歴史と文化」 (一般市民向け招待講演)

### 林

大阪大学大学院工学研究科招聘研究員

林昭次 (2014.8) 夏休みスペシャル 恐竜の細胞が見える!? 化石研究新時代 「サイエンスZERO」NHK (東京都)

林昭次 (2014.8) 恐竜の繁栄と絶滅. 大東市立西部図書館 (大東市)

林昭次 (2014.9) 絶滅哺乳類パレオパラドキシアとその仲間のナゾの生態を探る. 三重県立総合博物館 (津市)

林昭次 (2014.11) 骨の内部組織から探るマチカネワニの謎. マチカネワニ化石発見50周年記念事業 大阪大学シンポジウム「マチカネワニ・サミット2014」, 豊中市アクア文化ホール (豊中市)

林昭次 (2014.12) たんば恐竜塾, ちーたんの館 (丹波市)

林昭次 (2015.2) 常設展示解説映像パネル「ステゴサウルス」「スコロサウルス」国立科学博物館 (東京都)

花井智也・林昭次・佐藤たまき (2015.2) 日本古生物学会第164回例会 (豊橋自然史博物館) 優秀ポスター受賞「ポリコティルス科首長竜類の肋骨の組織学的研究」

### 石井

石井陽子 (2014.6, 2015.2) 火山灰を観察しよう. きしわだ自然資料館ミニ実習

石井陽子 (2014.12) 豊中市教育研究会理科部会講師 平成25年度笹川科学研究実践研究部門奨励賞受賞「博物館所蔵のポーリングコアを使って大阪平野地下の

地層をさぐる-地学分野の学校向け貸し出し教材の開発・運用と防災教育への展開-」<http://www.jss.or.jp/material/img2/d-etal6.pdf> (20150422閲覧)

### 中条

日本地質学会代議員、行事委員 (堆積地質部会)  
地学団体研究会大阪支部委員  
大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」

## VIII. 学術交流

### ■大阪市立大学との共同研究

研究テーマ：日本および世界における植物 (メタセコイアなど) の普及の歴史と文化創造性・社会および文化のデザインに与えた影響

研究者：岡野 浩 (大阪市立大学都市研究プラザ)・塚腰 実

期間：2014年7月1日～2015年3月31日

### ■大阪大学工学部との共同研究

研究テーマ：化石骨の構造的研究

研究者：中野 貴由 (大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻)・林 昭次

期間：2014年10月17日～2015年3月31日

## IX. 外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要項により、平成26年度に受け入れた外部研究者は表1のようである。期間中に外部研究者が公表した業績は次の通り。

松井彰子・上野正博・山下 洋 (2014) 京都府舞鶴湾の同所的生息地におけるキララハゼ属3種の成長および繁殖特性. 水産海洋研究 78 (2) : 75-85.

Saito, N., T. Yamauchi, H. Ariyama, O. Hoshino (2014) Descriptions and ecological notes of free-swimming forms of cymothoid isopods (Crustacea: Peracarida) collected in coastal waters of Japan. Crustacean Research 43 : 1-16.

反田實・赤繁悟・有山啓之・山野井英夫・木村博・團昭紀・坂本久・佐伯康明・石田祐幸・壽久文・山田卓郎 (2014) 瀬戸内海の栄養塩環境と漁業. 水産技術 7 : 37-46.

Ariyama, H., M. Sano (2015) Growth, reproduction and ontogenetic migration of the greasyback shrimp *Metapenaeus ensis* in Osaka Bay, Japan. Plankton and Benthos Research 10 : 55-66.

Valerii Mutin, K. Ichige (2014) A new species of

*Xylota* Meigen (Diptera: Syrphidae) from the Far East. Zootaxa 3878 (2) : 196-200.

今村彰生・乾美浪・菊地淳一・佐久間大輔 (2014) 属特異的プライマーによる本郷次雄標本の断片化したDNA増幅の試み. 日本菌学会第58回大会 : P31.

今村彰生・乾美浪・菊地淳一・脇村圭・佐久間大輔 (2014) 属特異的プライマーによる本郷次雄標本の断片化したDNA増幅の試み. 日本生態学会第62回大会 : PA2-112.

今村彰生 (2014) 琵琶湖汀線の踏査による絶滅危惧魚食魚ハス *Opsariichthys uncirostris uncirostris* の詳細な分布情報. 保全生態学研究 19 : 151-158.

Nakaya, H., Yamashita, K., Utsunomiya, S., Kikuchi, N., Kondo, Y. The late Cretaceous elasmosauridae (Plesiosauria) from Shishi-jima Island, Kagoshima, southwest Japan. 74st Annual Meeting Society of Vertebrate Paleontology, Berlin, Germany, 講演要旨.

篠木善重・大石久志・蒔田実造 (2014) 三重県RDB種の記録. はなあぶ 37 : 92-99.

大石久志・村山茂樹 (2014) 日本産イエバエの同定. はなあぶ 37 : 100-136.

大石久志 (2014) ハナアブ科・ミギワバエ科日本産昆虫目録第8巻 (1・2部) 日本昆虫目録編集委員会編. 1101pp. 権歌書房.

大古場正 (2014) 三河湾 (愛知県) で確認されたイボキサゴ個体群の消滅. ちりぼたん44 (1-2) : 10-12. 日本貝類学会.

大古場正 (2015) 大阪湾初記録のヘソアキオリイレボラ. ns. 61 (3) : 4.

大古場正・北藤真人・石田 惣 (2014) 男里川河口に生息するタケノコカワニナ. ns. 60 (12) : 2-3.

川上誠太 (2014) 宝塚昆虫館旧蔵の矢倉和三郎貝類コレクション. かいなかま48 (1) : 27-45.

川上誠太 (2014) ナカムラギセルの中村定八 貝類コレクション拝見記-矢倉和三郎関係資料を多数含む、昭和初期のタイムカプセル-. かいなかま 48 (2) : 35-43.

Kawakami, Y., K. Yamazaki, K. Ohashi (2015) Increase in dark morph types and decrease in body size of *Cheilomenes sexmaculata* (Coleoptera: Coccinellidae) during a range expansion. European Journal of Entomology. 112 (2) : 289-294.

河上康子・山崎一夫・大橋和典 (2014) ダンダラテントウの分布北上とそれに関わる気候要因. 昆虫と自然. 49(13) : 29-31.

- 河上康子・村上健太郎 (2014) 海岸性甲虫類の種構成と海浜の面積および孤立度との関係. 昆虫(ニューシリーズ) 17 (2) : 59-66.
- Negrobov, O. P., T. Kumazawa, T. Tago, O. O. Maslova (2014) Two new species of *Paraclius* Loew, 1864 (Diptera : Dolichopodidae) from Japan with a key to Palearctic species. Caucasian Entomological Bulletin 10 (2) : 311-316.
- Negrobov, O. P., T. Kumazawa, T. Tago, O. O. Maslova (2014) The species of the genus *Thinophilus* Loew, 1864 (Diptera : Dolichopodidae) of Japan, with description of one new species. Far Eastern Entomologist 281 : 1-6.
- Negrobov, O. P., T. Kumazawa, T. Tago, O. O. Maslova (2014) New data on the genus *Dolichopus* Latreille, 1796 (Dolichopodidae, Diptera) from Japan. Amurian Zoological Journal 6 (4) : 369-371.
- 熊澤辰徳・吉田浩史 (2014) 兵庫県におけるアシナガバエ科の採集記録. はなあぶ (38) : 25-30.
- 佐藤隆春・森山義博・坂本隆彦・小西哲夫・竹内靖夫・別所孝範・山本睦徳 (2014) 大阪層群ピンク火山灰の堆積ユニット. 日本火山学会講演予稿集2014年度秋季大会 : 141.
- 佐藤隆春・森山義博・坂本隆彦・小西哲夫・竹内靖夫・別所孝範・山本睦徳 (2014) 降灰順を示す大阪層群ピンク火山灰. 地学団体研究会第68回総会(九州in SAGA) 講演要旨集・巡検案内書 : 102.
- 坂本隆彦・森山義博・佐藤隆春・小西哲夫・竹内靖夫・別所孝範・山本睦徳 (2014) 堆積環境を急変させたピンク火山灰の降灰. 地学団体研究会第68回総会(九州in SAGA) 講演要旨集・巡検案内書 : 89.
- Yoshito Shimon, S. Hiroi, S. Takamatsu (2014) . The phylogeny of *Russula* section *Compactae* inferred from the nucleotide sequence of the rDNA large subunit and ITS regions. The Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University (40) : 65-75.
- 下野義人 (2015) 上田俊穂先生と思い出深いベニタケ属の過去・現在. 関西菌類談話会会報 31 : 6-15.
- 下野義人・小寺祐三・高松進 (2014) カラムラサキハツ (*Russula omiensis*) とその近縁種の形態および分子系統学的解析 日本菌学会講演要旨集 : 44.
- 下野義人 (2015) ニセクロハツType2 (アカハニセクロハツ) は*R. eccentrica*か?. 関西菌類談話会講演要旨集 : 2.
- Greenfield, D. W., Suzuki, T., Shibukawa K (2014) Two new dwarfgobies of the genus *Eviota* from the Ryukyu Islands, Japan (Teleostei : Gobiidae) , Zootaxa 3774 (5) : 481-488.
- 鈴木寿之 (2014) クモハゼ属 (pp.495-497) ; イソハゼ属 (507-517) ; コバンハゼ属 (522-527) ; ダルマハゼ属 (530-531) ; ベニハゼ属・シマイソハゼ属 (536-541) in 本村浩之・松浦啓一編. 奄美群島最南端の島与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Suzuki, T., D. W. Greenfield (2014) Two new dwarfgobies from the Ryukyu Islands, Japan : *Eviota shibukawai* and *Eviota filamentosa* (Teleostei : Gobiidae) . Journal of the Ocean Science Foundation 11 : 32-39.
- Shibukawa, K., T. Suzuki, H. Senou (2014) *Dotsugobius*, a new genus for *Lophogobius bleekeri* Popta, 1921 (Actinopterygii, Gobioidae, Gobiidae) , with re-description of the species. Bulletin of the National Science Museum, Tokyo, Series A 40 (3) : 141-160.
- 中村政裕・鈴木寿之・河野裕美・塚本勝巳・大竹二雄 (2014) 琉球列島西表島浦内川の感潮域が絶滅に瀕する魚類5種のナーサリーとして果たす役割. 日本生物地理学会会報 69 : 45-56.
- 鈴木寿之・渋川浩一・I-Shiung Chen・矢野維幾・千葉悟・内野啓道・高瀬歩・瀬能宏 (2015) 琉球列島から得られた日本初記録のハゼ亜目魚類8種. Fauna Ryukyuana 18 : 9-38.
- 谷田一三 (2014) 河原の水族館 川虫と河川環境を調べる. Rio(豊田市矢作川研究所月報) (181) : 2-3.
- 小倉紀雄・竹村公太郎・谷田一三・松田芳夫 (編) (2014) 水辺と人の環境学 (全3巻). 朝倉書店, 東京, 143pp.+142pp.+158pp.
- Tanida, K., Hanafia, Z. (2014) Some simple methods to estimate surface area of stones in streams. Biology of Inland waters 28 : 37-41.
- Tanaka, A., Namba, T., Tanida, K., Takemon Y. (2014) Evaluation of a pump method for unbiased sampling of stream hyporheos. Hydrobiologia, 730 : 29-43.
- 谷田一三 (2014) 河床材料(底質環境)を線格子法で調べる. Rio(豊田市矢作川研究所月報) 187 : 3-4.
- Inaba, S. Nozaki, T. Kobayashi S., Tanida K. (2014) Discovery of immature stages of *Neureclipsis mandjurica* (Martynov, 1907) (Trichoptera, Polycentropodidae) from Japan. Biogeography 16 : 63-70.

- Taira, A., Tanida K. 2013 (2014) Unusual behaviour and morphology of some *Rhyacophila* Pictet, 1834 caddisfly (Trichoptera: Rhyacophilidae) larvae reflect their ability to use the hyporheic zone. *Aquatic Insects* 35: 23-37.
- 谷田一三・江崎保男・一柳英隆 (共編著) (2014) ダムと環境の科学 III. エコトーンと環境創出. 京都大学学術出版会, 京都, 352 pp.
- 谷本正浩 (2014) 千地万造先生追悼記事 爬虫類化石とともに. *メランジェ* 14: 4-5. きしわだ自然友の会.
- 谷本正浩 (2014) 第4回モササウルス類シンポジウム (Fourth International Mosasaur Meeting) に参加して. *化石研究会会誌* 46-2: 124-125.
- 谷本正浩, 北田稔 (2015) 伊賀のアリゲーターは冬ごもり用の穴を掘ったのか? 第30回地学研究発表会講演要旨集: 1.
- 田村美美子・井上泰江 (2015) ナミフタオカゲロウ終齢幼虫の塩類細胞分布パターンについて. *奈良女子大学共生科学研究センター要旨*: 1-3.
- 宮平絹枝・天満和久 (2015) 奈良県御所市におけるギフチョウの保全活動. 第11回チョウ類の保全を考える集い要旨: 8.
- 名部みち代・糟谷大河・保坂健太郎 (2014) 日本産 *Leucoagaricus viridiflavus* (ハラタケ科). *日菌報* 55: 35-40.
- 鳴橋直弘・中山徹 (2014) バラ科ニシムラキイチゴ (*Rubus nishimuranus*) 四国で発見. *植物地理・分類研究* 62 (1): 19-21.
- 花崎勝司 (2015) 芥川水系 (大阪府高槻市) から2009年~2013年に記録された魚類. *地域自然史と保全* 36 (2): 135-146.
- 松下功・小島未希・荏開津孝生・濱田信夫 (2014) ミスト発生による浴室のカビ胞子の発芽抑制効果. *日本防菌防黴学会誌* 42: 233-238.
- 浜田信夫 (2014) スマホカバーとカビ. *環境管理技術* 32: 242-246.
- Takenaka, Y., N. Hamada, T. Tanahashi (2014)  $\gamma$ -lactonic and linear carboxylic acids from cultured lichen mycobionts of *Graphis scripta*. *Heterocycles* 89: 2729-2738.
- 林 寿一 (2014) ルソン島からのリカエニナニセキララシジミとカマエレオナムラサキシジミの異常型. *やどりが* (243): 12-13.
- 林 寿一 (2015) フィリピン・ミンドロ島のトシコツメアシフタオシジミ, オスの異常型 (鱗翅目: シジミチョウ科). *大阪市立自然史博物館研究報告* (69): 19-23.
- Fujie S. & K. Maeto (2015) A new species and a new record of the genus *Ascogaster* Wesmael, 1835 (Hymenoptera: Braconidae) from Japan. *Japanese Journal of Systematic Entomology* 20 (2): 177-179.
- 松田真平・金沢至 (2014) 8.チョウ・ガ. 第45回大阪市立自然史博物館特別展「都市の自然」解説書: 33-36.
- 松田真平 (2014) 大阪府産キマダラルリツバメ最初の発見地と発見時の標本について. *やどりが* (240): 23-27.
- 松田真平 (2014) 沿海州と北海道のエゾスジグロシロチョウの発香鱗の個体差について (おもに渡辺康之氏からの提供標本から). *日本鱗翅学会近畿支部第150回例会講演要旨*: 9-10.
- 松田真平 (2015) 大阪市内でホンサナエを記録. *大昆虫Crude* (59): 19.
- 松田真平 (2015) ヤマト (エゾ) スジグロシロチョウとスジグロシロチョウの成虫を後翅裏面の肩脈で区別することについて. *大昆虫Crude* (59): 24-29.
- 丸井英幹 (2014) 箕面山ニホンザルのF群に装着したGPSの特性と遊動の解析 -GPSの測位頻度と観察日誌の記録方法を変更して得られた効果-. 平成25年度天然記念物「箕面山サル生息地」の箕面ニホンザル集団の保護管理調査報告書: 38-61. 箕面山猿保護管理委員会・箕面市教育委員会.
- 松橋義隆 (2014) 三重県津市美里町柳谷の中新統一志層群産海生哺乳類大型骨化石. *化石の友, 東海化石研究会誌* (59): 22-28.
- 松橋義隆・小池伯一 (2015) 長野県戸隠産の鮮新世齧歯類化石. *長野市立博物館紀要* (16): 8-15.
- 吉田浩史 (2015). 琵琶湖・淀川水系の河川周辺における双翅目の記録. *はなあぶ* (39): 64-76.
- 渡辺克典 (2014) 『奇跡の古代鱈マチカネワニ発見50年の軌跡 記録集』大阪大学総合学術博物館発行.

表1. 平成26年度に受け入れた外部研究者

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
秋山 彰子	外来研究員	京都大学教授 山下 洋	波戸岡清峰
有山 啓之	外来研究員	本人	石田 惣
安藤 洋子	外来研究員	本人	佐久間大輔
石井 久夫	外来研究員	本人	中条 武司
石田 路子	外来研究員	本人	石田 惣
市毛 勝義	外来研究員	本人	松本吏樹郎

乾 美浪	外来研究員	本人	佐久間大輔
今村 彰生	外来研究員	本人	佐久間大輔
宇都宮 聡	外来研究員	鹿児島大学教授 仲谷 英夫	林 昭次
大石 久志	外来研究員	本人	松本吏樹郎
大古場 正	外来研究員	本人	石田 惣
大谷 道夫	外来研究員	本人	山西 良平
大塚 公雄	外来研究員	本人	金沢 至
奥田 尚	外来研究員	本人	川端 清司
数見 保則	外来研究員	本人	佐久間大輔
川上 誠太	外来研究員	本人	石田 惣
河上 康子	外来研究員	本人	松本吏樹郎
熊澤 辰徳	外来研究員	本人	松本吏樹郎
小郷 一三	外来研究員	本人	山西 良平
佐藤 隆春	外来研究員	本人	中条 武司
清水 裕行	外来研究員	本人	川端 清司
下野 義人	外来研究員	本人	金沢 至
鈴木 寿之	外来研究員	本人	佐久間大輔
瀬戸 剛	外来研究員	本人	波戸岡清峰
谷田 一三	外来研究員	本人	長谷川匡弘
谷本 正浩	外来研究員	本人	金沢 至
田村美美子	外来研究員	本人	林 昭次
樽野 博幸	外来研究員	本人	金沢 至
天満 和久	外来研究員	本人	塚腰 実
中谷 憲一	外来研究員	本人	川端 清司
長江眞紀子	外来研究員	本人	金沢 至
名部みち代	外来研究員	本人	金沢 至
鳴橋 直弘	外来研究員	本人	石田 惣
西澤真樹子	外来研究員	本人	佐久間大輔
花崎 勝司	外来研究員	本人	長谷川匡弘
濱田 信夫	外来研究員	本人	和田 岳
林 寿一	外来研究員	本人	波戸岡清峰
弘岡 拓人	外来研究員	本人	佐久間大輔
藤江 隼平	外来研究員	本人	金沢 至
細川 正富	外来研究員	本人	松本吏樹郎
前田 哲弥	外来研究員	本人	松本吏樹郎
松江実千代	外来研究員	本人	波戸岡清峰
松田 真平	外来研究員	本人	佐久間大輔
丸井 英幹	外来研究員	本人	塚腰 実
松橋 義隆	外来研究員	本人	金沢 至
道盛 正樹	外来研究員	本人	長谷川匡弘
森下奈津子	外来研究員	本人	塚腰 実
森本 繁雄	外来研究員	本人	佐久間大輔
山住 一郎	外来研究員	本人	佐久間大輔
吉田 浩史	外来研究員	本人	佐久間大輔
米澤 里美	外来研究員	本人	松本吏樹郎
			和田 岳

渡辺 克典	外来研究員	本人	林 昭次
渡部 哲也	外来研究員	本人	石田 惣

## X. 収蔵資料を利用した研究

植物標本庫 (OSA) の収蔵標本を研究材料として利用し、2014年度に寄贈された文献のリストは次の通りである (発表順)。

- 村瀬ますみ (2013) ジュウニキランソウ及び外来植物. 紀州生物 42 : 18-22.
- Y. Inoue et al. (2013) Notes on rhizoidal tubers in *Tortuka truncata* from Japan. *Hikobia* 16 : 299-302.
- Y. Shimono, M. Hiroi and S. Tkamatsu (2014) The phylogeny of *Russula* section *Compactae* inferred from the nucleotide sequences of the rDNA large subunit and ITS regions. 三重大学大学院生物資源学研究科紀要 40 : 65-75.
- 平澤優輝 (2014) 標本種子の発芽可能性の評価と種子生存率の高い標本作成方法の開発. 新潟大学教育学部学校教員養成課程理科教育専修平成25年度卒業論文.
- 井上侑哉・長谷信二・坪田博美 (2014) センボンウリゴケ (センボンゴケ科、蘚類) の新産地と日本国内の分布. 植物研究雑誌 89 (3) : 189-192.
- T. Ohi-Toma, K. Watanabe-Toma, H. Murata, J. Murata (2014) Morphological variations of *Aristolochia kaempferi* and *A. tanzawana* (Aristolochiaceae) in Japan. *The Journal of Japanese Botany* 89 (3) : 152-163.
- 木村全邦 (2014) 奈良県新産のカサゴケモドキ. 蘚苔類研究 11 (2) : 45-46.
- 支倉千賀子 (2014) 牧野富太郎博士採集の神奈川県産ヒメスズタケ (ヤマキタダケ). *FLORA KANAGAWA* (78) : 928-929
- 藤井伸二・牧雅之・國井秀伸 (2014) 島根県新産植物3種の記録 (シログワイ, ノダイオウ, ヒメタデ) とアオヒメタデに関するノート (調査報告). 日本植物分類学会誌 14(2) : 169-176.
- 山本和彦・市川正人 (2014) 三重県における絶滅危惧の分布に関する最近の知見. 三重自然史 (14) : 37-47.
- 市川正人 (2015) 桑名市でコウガイモを再確認. 自然誌だより. 三重自然誌の会情報誌 (103) : 4.
- 遠藤直樹 (2015) 難培養性食用担子菌タマゴタケの人工栽培化に関する基礎的研究. 信州大学大学院農学研究科生物・食料科学専攻博士学位論文.